



ろうさい連携だより

2011.1

第 7 号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します



華厳滝（撮影：胃腸科部長 浜田史朗）

目次

- p1 年頭挨拶 ● 病院長
- p2~4 診療の現場から ● 整形外科
- p5 診療科の紹介 ● 皮膚科
- p6 Topics ● 市民講座
- p6 地域医療連携室から
- p6 今号の投稿 ● ヒマジン

年頭のあいさつ



病院長 三浦 幸雄

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましてはご健勝で佳いお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、先生方のご多幸と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

当院も無事に新しい年を迎えることができました。これも先生方から賜りました暖かいご支援のお蔭でございまして、心から感謝申し上げます。

厳しい医療環境が続く中で、地域の皆様に信頼される病院として、その重責を果たすべく診療機能を充実させていくことはなかなか容易ではありませんが、本年も、職員一同、覚悟も新たにさまざまな課題の克服に取り組んで参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本院は、昨年度までに地域医療連携室のリニューアル、地域がん診療連携拠点病院の更新、地域医療支援病院の認定、診療部門のセンター化（糖尿病代謝、消化器内視鏡、鏡視下手術、大腸肛門病、人工関節）、病院機能評価（version6）の認定、院内オーダリングシステムの更新などを推進して参りました。

これらは、登録医の先生方との密接な連携を基にして地域医療の拠点としての役割を果たしていくことが本院に課せられた最大の使命であると考え、その目標達成を期した一連の成果とご理解いただければ幸いです。現在、急性期病院として専門スタッフのさらなる充足、高度医療を支える施設設備の拡充、各種サービスの向上など多くの課題が山積しておりますが、その解決に向けて職員共々力を尽くして参りたいと思います。

本年度は、臨床研修医として新たに10名が決定し、募集定員がフルマッチするという大変勇気づけられるニュースが飛び込んで参りました。本院は、初期臨床研修医や後期研修医はもとより、医学生（東北大）、薬学生（東北薬科大学）および看護学生（東北労災看護専門学校、宮城県立大）などの教育施設としても大きな役割を果たしております。本院の診療科部長には東北大学の臨床教授ないしはその歴任者が少なくありません。また、仙台市医師会学術奨励賞の本院受賞者も現在5名中3名（佐藤克巳（平11）、徳村弘実（平14）、赤井裕輝（平23））が在職しております。このような教育スタッフの充実が病院機能と共に研修希望者に対して大きな牽引力になっていることは疑いがありません。優れた人材の育成は、地域の拠点病院として極めて重要な役割と考えられ、さらに充実を期していきたいと思っております。

いずれにしても、事の成否は先生方からのご評価を待たなければなりません。職員一同、これまでに賜りましたご支援の重みをしっかりと受け止め、さらなる飛躍を目指したいと思います。

先生方におかれましては、本年もどうか宜しくご指導とご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

整形外科

東北労災病院 副院長・整形外科部長 佐藤 克巳

整形外科は東北労災病院の中で中核をなす診療科であり、10人の整形外科医で100床以上の病室をカバーしております。整形外科領域のすべてをカバーすることはできませんが、信田進吾、井上尚美、松本不二夫、田中稔の4人の部長を中心として、関節疾患、外傷・骨折、脊椎疾患、スポーツ整形、末梢神経疾患の治療を行っております。基本的に手術的治療を対象とする症例を扱っており、保存的治療は地域の医療機関にお願いすることにしております。年間手術件数は約1500件を目指しており、人工関節置換術は年間300件を越えており、宮城県ではトップであり、日本では30位以内に入っております。詳細は東北労災病院のホームページの東北人工関節センターの欄をご覧ください。股関節や膝関節の置換をする病院が多い中、当科の特徴は肩関節、肘関節、股関節、膝関節と主要大関節の置換が可能なところにあります。脊椎手術、骨折、関節鏡視下手術、神経の手術はいずれも200件を超えており、高い専門性と高度な技術を提供できます。以下、各専門分野について紹介させていただきます。

I. 上肢・末梢神経部門から

第二整形外科部長・信田進吾は、肘・手・末梢神経障害が専門です。肘は、痛みと可動域制限を主訴とする変形性肘関節症に対する関節形成術(年間約30件、整災外45:1279、2002)、肘関節部外傷および肘関節拘縮に対する手術(年間約40件、整災外48:869、2005、UJMS113:95、2008)を中心に行っています。野球肘障害、特に遊離体や肘離断性骨軟骨炎に対する手術も年間20件ほど行っています(UJMS113:201、2008)。手では新鮮外傷は少なく手の外科一般の他、母指CM関節症に対する手術が増加してきました。末梢神経障害の中では最も多く、成人女性の0.5%に発症、手の痺れを有する人の1/3を占めるといわれる手根管症候群は大勢の患者さんをご紹介いただいております。保存的治療(年間60-80名)、手術的治療(年間約60件)ともに適応

を十分に考慮して治療し、80%以上に良い治療効果が期待できます(UJMS 113:181、2008、JOS 10:22、2005)。変形性肘関節症に伴う肘部管症候群も多く、鷲手変形と知覚脱失を伴う重症例には尺骨神経剥離術に加えて早期につまみ力を獲得できる機能再建術・腱移行術も行っています(UJMS114:95、2009)。頻度の多い橈骨神経麻痺や近年増加している尺骨神経管症候群、まれな前骨間神経麻痺(臨神生36:212、2008)も電気生理学的診断により正確に確定診断を行って(整災外51:687、2008)治療を行います。(信田 進吾)

(整災外:整形・災害外科、UJMS: Ups J Med Sci, JOS: J Orthop Sci, 臨神生: 臨床神経生理学)

II. 関節外科・外傷部門から

関節外科班では、上肢(肩関節、肘関節)・下肢(股関節・膝関節)人工関節置換術、股関節の外科(主に寛骨臼回転骨切り術:RAO)リウマチの外科、四肢外傷(骨折)を担当しています。

平成22年度(1月より12月17日現在まで)の主な手術の内訳は、人工股関節置換術123関節(人工股関節再置換術15関節を含む)、人工膝関節置換術135関節(人工膝関節再置換術7関節、人工膝関節片置換術3関節を含む)、上肢人工関節置換術9関節(人工肩関節置換術2関節、人工肘関節置換術7関節)、RAO7関節です。今年、信田先生が行われている人工関節置換術の症例数を加えて、年間人工関節置換術手術件数が300例を超えました。また四肢外傷にも積極的に対応していますが、今年、骨癒合遷延、偽関節症例など陳旧例に対する手術も7例行いました。来年度は、更なる安定した人工関節の手術成績の獲得と技術の向上を目指して、ご紹介頂きました患者様に対応していきたいと考えています。(図1)(井上 尚美)

図1 主な手術の単純X線像



図1-A 人工股関節置換術 (THA)



図1-B 人工膝関節置換術 (TKA)



図1-C 寛骨臼回転骨切り術 (RAO) 左股関節

Ⅲ. 脊椎部門から

「車椅子になるかもしれないから」と、患者さんに手術を拒まれることが多くありましたが、今では積極的に手術を希望される患者さんが増えました。尤も、車椅子になるような重大な合併症は、昔も滅多に起こることではなかったわけですが、以前よりも脊椎手術に対する抵抗感が薄まってきたと実感しています。

東北大学脊椎外科懇話会では、東北大学整形外科とその関連病院48施設で行われたすべての脊椎手術を登録しています。登録開始時の1988年には年間974件でしたが、2007年には3倍以上の2941件に達しています。当科では、年間276件(2009年)の手術を行っていて、同門で行われる全脊椎手術の約1割を担っています。

疾患別では、腰部脊柱管狭窄症が最も多く約60%を占めています。腰痛と、歩行時に出現する下肢のしびれと痛みが臨床症状の特徴です。常にしびれがある状態ですと、せっかく手術をしてもしびれが残存することが多いので、腰かけているときにしびれない軽症のうちに手術を行うのがお勧めです。手術は、椎弓の部分切除と黄色靭帯を切除する開窓術を基本とし、椎間関節を極力温存して力学的に不利にならないようその骨切除のデザインに独自の工夫を加えています。手

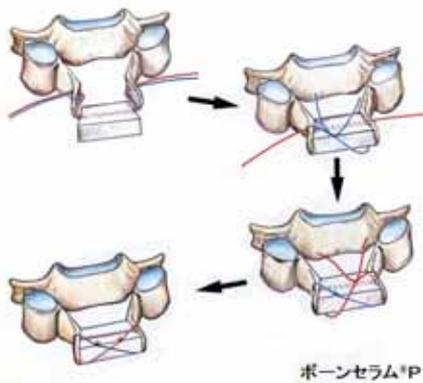
術椎間に不安定性がみられる場合には、腰椎後方椎体間固定術(PLIF) (図2)を行っています。次に多いのが

図2 腰椎後方椎体間固定術 (PLIF)



頸髄症で、全体の約20%です。手指のしびれと巧緻障害がみられ、重症化すると歩行障害(痙性歩行)が出現します。人工骨(ハイドロキシアパタイト)を用いる黒川式頸椎椎弓拡大術(図3)が主な術式ですが、2椎間までの除圧で済む場合には、創が小さく筋肉の剥離も少なく、術後の創痛軽減が期待できる白石式椎弓切除術を行っており、良い成績が得られています。かつて最も手術件数の多かった腰椎椎間板ヘルニアは、全体のわずか10数%たらずとなっています。近年、椎間

図3 黒川式頸椎椎弓拡大術



板ヘルニアが数カ月の間に縮小・消失する可能性がわかってから、保存療法が主体となったためです。手術は、従来法に加え、内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術(MED法)も取り入れています。脊椎脊髄損傷は、血腫などで麻痺の急性増悪がない限り、搬送直後に緊急に手術を行うことがなくなりました。待機手術であっても成績に差がなく、正確な病態把握と術式の検討がより重要です。また、神経鞘腫や髄膜腫に代表される脊髄腫瘍にも顕微鏡下手術で対応していますので、どうぞご紹介ください。

最後に、東北大学脊椎外科懇話会では、開発途上国を中心とした脊椎外科医の育成に取り組んでおり、当科でも、香港、韓国、台湾、中国、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、トルコなどから若手の脊椎外科医を受け入れ手術研修を行っています。(松本 不二夫)

IV. スポーツ整形外科・肩関節部門から

2008年より整形外科診療にスポーツ整形外科部門が開設されました。現在、永元英明先生と共にスポーツ全般の障害と肩関節疾患を中心に診療しております。肩疾患では、腱板断裂、肩関節拘縮、肩鎖関節脱臼、肩周辺の骨折など、スポーツ障害では、投球障害肩、反復性肩関節脱臼、前十字靭帯損傷、半月板損傷などの手術を行っております。

当院では様々な疾患に対し、関節鏡を用いた手術(鏡視下手術)を行っております。鏡視下手術は直径4.5mmの関節鏡を用いてテレビモニターを見ながら行います。通常の手術のような皮膚切開を必要としないため、術後の痛みが少なくリハビリもスムーズに進み早期退院・社会復帰が可能となっております。(写真1)



写真1

また、東北楽天ゴールデンイーグルスのチームサポートを行っており、多くのプロ野球選手の診察やコンディショニング指導を行っております。スポーツ動作における正常な運動連鎖は、運動エネルギーを下肢から体幹・上肢へ効率よく伝達することです。しかし、多くの選手はこの正常な運動連鎖を再現できず、運動機能が低下した状態でスポーツを継続しているのが現状です。運動連鎖の破綻は選手のパフォーマンス低下だけでなく、様々な部位に不要なストレスが加わることで肩痛・肘痛・腰痛などの原因になります。そこで、本年度からリハビリテーション部の方々の協力のもと、高校野球選手の怪我の予防とパフォーマンス向上を目的に、チーム単位でのメディカルチェックと各選手の機能障害に応じたコンディショニング指導を開始しております。今後は、この活動を徐々に広げ、宮城県全体で選手のメディカルチェックとコンディショニングを行うようなシステムを作っていきたいと思っております。(写真2・3)(田中 稔)



写真2



写真3

診療科の紹介

皮膚科

皮膚科部長 谷田 宗男



柿崎彩 谷田宗男 江川貞恵

今回は皮膚科の紹介をさせていただきます。日頃病診連携をいただいている先生方には、厚く御礼を申し上げます。今後ともご指導よろしくおねがいいたします。

当科で扱う疾患は水虫・かぶれ・にきび、疣贅（いぼ）などの一般的な皮膚疾患から、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹等のアレルギー性疾患、尋常性乾癬や掌蹠膿疱症などの炎症性角化症、天疱瘡、類天疱瘡などの自己免疫水疱症、熱傷や外傷性皮膚欠損などの外傷によるもまで多種にわたります。皮膚の良性腫瘍や悪性腫瘍の手術も行なっています。

病診連携の先生方からご紹介されることの多い疾患では蜂窩織炎やヘルペスなどの感染症の悪化や薬疹、中毒疹などで入院が必要なものが多いです。

帯状疱疹は現在ではパラシクロビル（バルトレックス）やファムシクロビル（ファムビル）の内服薬で外来でも加療が可能になっていますが、特に顔面や頭部に発症した帯状疱疹の場合は重症化する場合が多いので入院して安静を保ちながら加療するのをお勧めしています。約1週間で退院出来ます。

最近では尋常性乾癬について新しい生物学的製剤（抗TNF α 製剤）の登場で、重症の患者さんにも光明が見えてきました。皮疹が体表面積の10%以上ある患者さんや関節炎を伴う関節症性乾癬の方に適応があります。まだ新しい治療法で医療費も高額医療になる為に、そう簡単に出来る治療法ではありませんが、治療がうまくいくとほとんどの方の発疹がなくなってしまいます。現在尋常性乾癬の抗TNF- α 製剤による治療は皮膚科学会から認定された施設で

ないと出来ないことになっています。当科では呼吸器科と連携ができるため、日本皮膚科学会より認定を受けており治療が可能となっています。実際には必ずしも希望どおり抗TNF α 療法ができない患者さんもいますので、その場合はナローバンドUVBなどの光線療法などを行なっています。

その他に、当科の特色といえば、平成16年からの労災疾病13分野研究事業に参加したことから、職業性接触皮膚炎、特に理美容師の職業性接触皮膚炎の実態調査や原因アレルゲンの検索などを調査したことがあげられます。その成果を理美容師の手あれ予防ガイドブックとして冊子にまとめました。これからは職業性接触皮膚炎については労災疾病研究事業の一環として、化学物質により生じる職業性皮膚疾患の原因物質の早期把握のためのネットワークを構築する職業性皮膚疾患NAVIの立ち上げに協力しています。もし日頃の診療で職業性接触皮膚炎を疑う症例がありましたら、当科にご紹介をお願いいたします。

現在の診療体制はは谷田、江川、柿崎の3人体制で診療をしておりますが、医師の派遣をいただいている大病院の事情もあり、来年の4月からは2人体制に縮小されることが決まっています。現在でも診療時間等で皆様をお待たせして申し訳ないと思っているのですが、今後とも頑張っていきますので何卒よろしくお願い致します。

「理・美容師の手あれ予防ガイドブック」



理・美容師を対象とした皮膚炎予防の手引き書

- 皮膚炎発症者への患者指導
- 未発症者への予防教育
- 店主への皮膚炎対策の提案

* A5版、120ページ

* 宮城県の理・美容組合加盟店、パッチテストを受けた理・美容師に配布した。

* 「労災疾病等13分野研究普及サイト」からもダウンロードが可能



第5回市民講座開催

12月4日(土)午後1時30分 1階ロビー

「一困っていませんか?夜中のトイレー 夜間頻尿の話」浪間泌尿器科部長「やってみよう骨盤底筋体操と失禁皮膚ケア」皮膚・排泄ケア認定の岡崎看護師との二本立ての講演で約100名の参加者がありました。夜間の頻尿に至る原因や生活指導、および最近の治療法の説明。後半には実践を交えた骨盤底筋体操の指導もあり、参加者の方は熱心に聴講していました。

寄せられたアンケートで参加者の年代、性別をみると70歳以上が56%、男女比は4:6でした。参加の理由は「健康に興味がある」が52%、次いで「自覚症状はあるが未受診」が34%でした。

かかりつけの先生のところで案内を見て、との問い合わせがいつもより多くあり、今回のテーマに対する意識の高さがうかがわれました。



地域医療連携室から

◆医療連携満足度調査

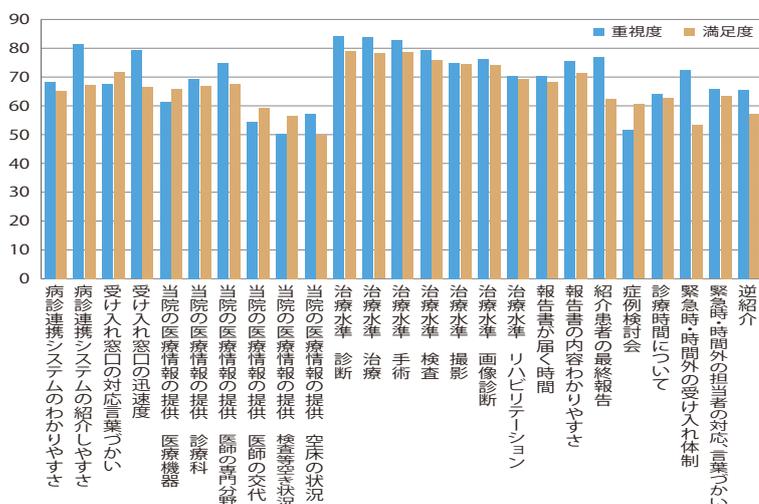
先日行いました満足度調査の結果をご報告いたします。ご協力くださいました先生方にお礼申し上げます。

また、頂いたご意見に関しましては後日改善案をご提示いたします。

項目	重視度	満足度
病診連携システムのわかりやすさ	68.3	65.2
病診連携システムの紹介しやすさ	81.5	67.3
受け入れ窓口の対応言葉づかい	67.5	71.8
受け入れ窓口の迅速度	79.2	66.5
当院の医療情報の提供医療機器	61.4	65.8
当院の医療情報の提供診療科	69.3	66.8
当院の医療情報の提供医師の専門分野	75.0	67.7
当院の医療情報の提供医師の交代	54.5	59.3
当院の医療情報の提供検査等空き状況	50.3	56.6
当院の医療情報の提供空床の状況	57.2	50.0
治療水準診断	84.2	79.1
治療水準治療	83.9	78.2
治療水準手術	82.8	78.7
治療水準検査	79.2	76.0
治療水準撮影	75.0	74.6
治療水準画像診断	76.3	74.3
治療水準リハビリテーション	70.2	69.4
報告書が届く時間	70.5	68.1
報告書の内容わかりやすさ	75.6	71.3
紹介患者の最終報告	76.8	62.5
症例検討会	51.6	60.5
診療時間について	64.0	62.8
緊急時・時間外の受け入れ体制	72.3	53.5
緊急時・時間外の担当者の対応、言葉づかい	65.7	63.5
逆紹介	65.5	57.1

◆月別紹介患者数

	紹介患者数(人)	逆紹介患者数(人)
平成22年10月	1,118	645
平成22年11月	1,086	621



今号の投稿

ヒマジン

初めまして。イマジンではありません、ヒマジンです。名は体を表すので、医療厳しきご時世、恐縮もの。忙中閑とご理解いただきたい。時々本紙に登場しますので、宜しくご鼠員に。折しもジョン・レノンの生誕70年。テロや戦争の危機が絶えない今日もイマジンのメッセージは色褪せていない。もう一つ。ビートルズ時代1964年後半にI am a loserという曲がある。そこにAnd so it's true pride comes before a fall というフレーズがある。「おごれる者(pride)久しからずって諺は本当らしい。君もいい気になっているとなにもかも失くしちゃう(fall)ぞ」。彼女に振られたときの負け惜しみの意味で書いているのだが、実は彼ら一流のアイロニーで、自分たちに言い聞かせている可能性がある。当時、彼らは世界の頂点。盛者必衰が、国にも当てはまると困ります。

暇人より



交通案内

交通(仙台駅から)

- 市営バス
 - ◎瞑想の松循環 (県庁市役所経由) 労災病院前下車
- 市営バス・宮城交通バス
 - ◎黒松団地・地下鉄泉中央方面、台原入口下車、徒歩5分
- JR
 - 北仙台駅下車、徒歩15分
- 地下鉄
 - 台原駅下車、南2出口徒歩10分



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **東北労災病院**

〒981-8563 仙台市青葉区台原4-3-21

TEL.022-275-1111(代表) FAX.022-275-4431

ホームページ <http://www.tohokuh.rofuku.go.jp>

地域医療連携室

TEL.022-275-1467(直通) FAX.0120-772-061